

日本語の依頼表現にみられる男女差

— テレビ・ドラマの台詞を通して

宮 偉 *

1 はじめに

人間は、例外も認められるが、基本的には男性と女性からなっている。しかし、男性と女性は生物学的に違うように、社会的にも違って、同じ「人間」であるが全く異なる「人間」でもある。社会的地位・社会的理想像・価値観・思考様式・行動様式等などにおいて、性差がかなり見られる。いわゆる「ジェンダー」というが、つまり社会的に定義される男女性差である。そして、その男性と女性の性差は、歴史的に、社会的に作られ、それぞれの男性と女性が小さい頃から学んできて、それぞれ社会的に違う文化を形成したとされる。

言語は文化の鏡である。違う文化は、その鏡である言語にも必ず映る。男女でそれぞれ違う文化も、必ずその言葉にも反映されると推測できる。

そこで本稿は、日常生活で最もよく使われている「依頼表現」を例にとって、依頼表現に見られる男女の性差を探りたい。

2 先行研究と本稿の立場

人間は、社会的動物として社会生活を営む上で、人とのコミュニケーションがどうしても必要不可欠である。そして、そのコミュニ

ケーション行為の中でも、「依頼（「他人に用件を頼むこと（スーパー大辞林 3.0）」）」が最も高い頻度で発生している。

依頼行為は、人にあることをしてくれるように頼むことであるから、相手のフェイスを脅かす行為（FTA）となる。山岡他（2010）によると、依頼行為が特に、

- ① 相手の消極的フェイスの侵害：依頼内容が相手に負担をかけるので、相手の「消極的フェイス（＝他者に自分の領域を邪魔されたくない欲求）」を脅かす。
- ② 積極的フェイスの侵害：依頼された側つまり被依頼者は、引き受けないと相手に悪く思われるという心配があるので、相手の「積極的フェイス（＝他者によく思われる欲求）」を脅かす。

というので、そのフェイスの侵害を和らげるために、人は、何かの方略を取ろうとする。そしてその方略は、男性と女性の性別によってかなり違うはずである。

依頼表現に関する研究は、かなり進んでいるが、男女性差と依頼表現の関連性からの考察は、まだ見当たらない。

依頼表現の定義について、本稿は山岡他（2010）に従うことにする。山岡他では、「依頼」「協力」の語用論的条件を次のように規定している。

* 本学社会システム研究所 客員教授、岡山商科大学 教授

参加者：依頼の話者＝参加者 A

協力の話者＝参加者 B＝意図されている行為者

- ① 当該行為が参加者 B の意思によってなしうる行為である。
- ② 通常の事態の進行において参加者 B が当該行為を実行するのは自明ではない。
- ③ 参加者 B による当該行為の実行は参加者 B 自身の権限に基づく。
- ④ 参加者 B による当該行為の実行は参加者 A に利益をもたらす。
- ⑤ 参加者 B が当該行為を実行することを参加者 A が欲している。

山岡他の定義は、「依頼」と「命令」との境界線でもあったと考えられる。「命令」とは、相手にそうさせる権限を話者が持って、聞き手はあくまでもそれに従うしかないのに対して、「依頼」は、協力するかどうかはあくまでも被依頼者の判断によるものなので、被依頼者にはそれを拒否する権限を持っていると理解してよかろう。

また、山岡他（2010）では、依頼表現の類型を、「遂行系依頼表現」「命令系依頼表現」「要求系依頼表現」「願望表出系依頼表現」「情意表出系依頼表現」の五つに分類している。それは以下のようになっている。

「遂行系」は、つまり「（お先に失礼しますので）後を頼みます」のように、「頼む」「依頼する」「お願いする」など遂行動詞が現れる依頼表現のことである。

「命令形」は、「（夫が妻に）おい良子、オムライスの作り方を教えてくれ」のように、配慮の要らない家族や友達同士で使われる、「～てくれ」「～てください」「～てちょうだい」などが現れるような依頼表現のことである。

いわゆる「要求系」は、「せめて香川君がどんな子だったか、教えていただけないでしょうか」のように、「～てくれるか」「～て

くださるか」「～てもらえるか」など主に疑問助動詞「か」の使用が特徴になっている依頼表現のことである。

そして「願望表出系」は、「隣の部屋を取っていただきたいんですが」のように、「～てほしい」「～てもらいたい」「～願いたい」など、話し手の願望を表す依頼表現のことである。

最後に「情意表出系」は、「もうすこし安くしていただけるとうれしいんですけど」のように、「条件節＋ありがたい／うれしい／たすかる」などが使われるような依頼表現とされる。

以上のような分類は、依頼表現の殆どをかなりカバーできると思うが、依頼行為を表すものでありながらその中には入れられていないものもある。例えば、恋人にキスを求められることに対して、

「みんな見てる。」

と言って、実際に「ここでキスするのをやめてください。」との意味を表す依頼行為になるが、山岡他の分類のどれにも当てはまらない。また「願望表出」と「情意表出」とあるが、いずれも話し手の感情を表出する形で依頼を表すが、その区別が曖昧である。

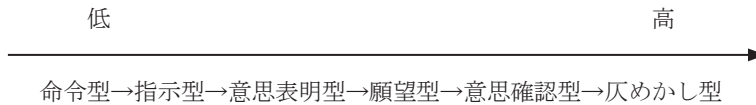
本稿は、山岡他（2010）分類に対して、次のような代案を提出したい（表 1）。

本稿では、特に山岡他（2010）での「命令系」を、依頼表現の丁寧度から「命令型」、「指示型」と「願望型」に分けて考える。山岡他（2010）では、命令調の強弱にもかかわらず、「～てくれ」「～て」「～てください」「～てちょうだい」を一律に「命令」と見ているが、丁寧さから見ると、「～てくれ」は命令に近いやや硬い依頼表現になるが、「～て」はむしろ親しい人に使える、命令より軽い表現となって、本稿では「指示型」と位置づける。また、「～てください」は人に

表 1 依頼表現の分類

類型	表現上の特徴	「ラストクリスマス」に出ている例文	備考
命令型	文字通り「命令」調。硬い。主に男性が親しい間柄に使う。「～てくれ」「動詞の命令形」その他命令表現が現れる。	○ おまえ、分かって<u>くれ</u>よ。 ○ 今度の土曜日、どこでもいいから店押さえて、おまえが結婚パーティーを<u>し</u>きれ。 ○ おい仁美、おまえもいい加減に勘弁<u>し</u>ろよ。 ○ それだけ、絶対忘れる<u>な</u>。	山岡他の「命令系」の一部、「～てくれ」表現に当たる。
指示型	軽い命令とでも言える。主に親しい人間関係に使える。「～て」が主な形として現れる。	○ おい塚本、模型もって来て。 ○ がんばって絶対治って帰ってくるから。待ってて。	山岡他の「命令系」の一部、「～て」表現に当たる。実際には硬い「命令」ではないので「指示型」と名づける。
意思表示型	自分の欲求を表明することによって相手に働きかける。「～たい」「～てもらいたい」「～てほしい」「～(よ)う(と思う)」が現れる。	○ 由希、やはりできる限り一緒にいよう。 ○ すみません。午後の会議の資料をいただきたいんですが。はい。ありがとうございます。 ○ これからも、あの子に、佑太に会ってほしいの。	山岡他の「願望表出系」と「情意表出系」に当たる。
願望型	誠意を持って相手に懇願する。さらに、丁寧度の高低によって「～ようお願いします」「～てください」「～てください」のような「丁寧系」と、「～を頼む」のような「率直系」に分けられる。	○ 健次君になってください。お願いします。 ○ もし私が負担になったら、あたしのことを忘れてちょうだい。 ○ 商品もきれいにとれてるし、表情もいい。これで発注お願いします。 ○ 俺これからサンプルもって届けに行ってくるから、そっちのほう頼むな。	山岡他の「遂行系」と「命令系」の「～てください」系列に当たる。
意思確認型	相手にそうする意図があるかどうかを確認する形で依頼。「～てもらえるか」「～してくれるか」「～てくれる?」「～ていいか」のような、疑問助動詞「か」の使用が特徴になっている表現。	○ あのを、納期なんですが、なるべく急ぎますが、一週間ほど見ていただけますか。 ○ 由希、おれに、預けてくれないか。おまえの人生。 ○ あたし、まだ練習残ってるから、すぐ戻ってくるから、待っててくれる? ごめんね。 ○ 採血しますね。左腕出してもいいですか。	山岡他の「要求系」に当たる。相手の意思を確認するやわらかい依頼表現なので「意思確認型」と名づける。
仄めかし型	直接依頼するのを避けて、それとなくこちらの依頼事を相手に分かってもらう。言いさしもこれに当たる。	○ シャワーのお湯が出ないんです。寝癖すごいでしょ。お風呂…。 ○ みんな見てる。 ○ 失礼ですが、先ほどお願いした資料なんですが。	山岡他の五つの分類のどれにも当てはまらない類型。

表2 各類型依頼表現の丁寧度



頼むという意識があって、誰にでも使える依頼表現であるが、「～てちょうだい」はふつう女性が用いる丁寧な依頼表現なので、本稿では「願望型」と位置づける。

それから、山岡他（2010）では、「頼む」「依頼する」「お願いする」などの遂行動詞が現れる依頼表現を「遂行系」にするが、表現の意識から見ると、それも誠意を持って人に頼むので、本稿では「～てください」「～てちょうだい」と同じように扱って「願望型」に入れる。

さらに、「シャワーのお湯が出ないんです。寝癖すごいでしょ。お風呂…。」のように、はっきり依頼を口には出さないが、実際には依頼行為を表している表現が、山岡他（2010）のどの分類にも該当しない。本稿ではそのような依頼表現を「仄めかし型」と名づける。

以上のような分類によって、殆どすべての依頼表現をカバーできると思う。そして、依頼表現の丁寧度、配慮の度合い、つまり FTA に対する配慮によって、上記表2のように区分する。

表2は右に行くほど丁寧の度合いが高く、左に行くほど丁寧の度合いが低いと思われる。以下では、「親疎」「上下」を軸にして分析を進める。

3 考察

(1) 使用データ

本稿は、2004 年フジテレビで上映された

テレビドラマ「ラストクリスマス」を研究対象にする。当該ドラマの主な登場人物は表3のとおりである。

本稿は、当テレビドラマの台詞を文字化して、その中の、依頼の語用論的条件を満たしたものを抽出した。特に考慮しているのは、「命令表現」と「依頼表現」の区別である。同じ「～てくれ」であっても、時には命令になるが、時には依頼になる。そしてその時の判断の基準としては、被依頼者には依頼者を拒否する権限があるか否かによる。「ラストクリスマス」に出た事例を取ると、例えば取締役が部下に対して言う「お前も出席してくれ」が、部下に上司を拒否する権限がないから命令になるが、同じ取締役が同じ部下に対して言う「わかってくれよ。俺だってつらいよ。」は、分かるか分からないか部下次第なので依頼になる。このように、「ラストクリスマス」の台詞を文字化して、全部で 204 件（うち男性 120 件、女性 84 件）を抽出して、各方面から分析を加えた。

ここで、配慮表現において特に考慮せざるをえない人間関係を、登場人物全体の関係性を考慮した上で、親疎・上下を軸にして、次の「疎・×」「親・上」「疎・上」「親・下」「疎・同」「親・同」の5つに分類する（表4）。

以下では、抽出した依頼表現の例文を、前述した類型別、人間関係別という二つの軸に大別して、各類型別・人間関係別・機能的表現という三つの面から男女での差異を考察する。

表3 「ラストクリスマス」の登場人物

登場人物	紹 介
春木健次	スポーツ用品会社「ハートスポーツ」の事業部責任者。会社の取締役新谷さんの大学時代の親友、スキー部のキャプテンでもある。面倒見のいいキャラで女性にもてるが、青井由希に恋をした。
青井由希	取締役新谷の秘書であり、不良少女歴ある。難病を抱えて人生をやり直したいと思って、変身して会社に入ったが、愛に不信感がある。
新谷伍郎	とくに仕事に能力が見られないが、社長の息子で、スポーツ用品会社「ハートスポーツ」の取締役をして、次期社長にもなれる人。春木さんと大学時代からの親友である。恋を一所懸命もとめるが、いつも失敗する駄洒落の好きな人である。
葉山達平	「ハートスポーツ」の事業部にいる春木さんの部下である。仕事はかなりできるし、責任感もつよい。自分の好きな人には何でもできるタイプ。
高瀬彩香	「ハートスポーツ」の派遣社員で、貧しい家庭を抱えているから大金持ちとの結婚を夢見ていろいろと作戦しているが失敗に終わった後、本当の自分を見つけた人。
日垣直哉	「ハートスポーツ」のデザイナーで、すごく有能であるが、傲慢で、女性に無責任でいろいろ手を出す、本気で好きな人を最後まで追い求める人。
藤沢律子	なくなった恋人のことをいつまでも思っ中々他の人は好きになれないアーティストであるが、目覚めて日垣さんに恋をした。
柴田幸子	春木さんの幼馴染で、何でも春木さんに頼り勝ち。旦那さんと一時期うまく行かなかったが、春木さんの助けで取り戻した。
医者	青井由希さんの主治医で、親切的な年寄りである。

表4 人物間関係の分類

依頼者から見る 被依頼者の立場	説 明
疎・×	まったく見知らない人間のこと。例えばタクシーの運転手さん、店員さん。あとは、仕事上の取引先に当たる人。
親・上	親しい上司をはじめ目上のこと。当ドラマで言うと、例えば同じ部署にいる上司、患者の主治医、親友の親などを指す。
疎・上	親しくもない目上。当ドラマで言うと例えば、初めて会った恋人のお父さん、遠い存在としての上司などを指す。
親・下	特に普段一緒に仕事をしている部下との関係。
親・同	親しい同輩、例えば親友、恋人などを指す。

(2) 類型別に見る男女差

本稿では、まず「ラストクリスマス」から抽出した依頼表現を、「命令型」「指示型」「意思表明型」「願望型」「意思確認型」「ほめかし型」のように類型別で見る。

表5のデータについては次のようにまとめることができる。

- ① 親しくなるほど依頼しやすくなる。
- ② 見知らない人（例えば店員、タクシーの運転手などのサービス業の人）や取引先の人に、一番よく使われているのは、いわゆる「願望型」である。
- ③ 上司をはじめ目上の人には、親疎を問

わず、一番よく使われているのは、「願望型」である。

- ④ 親しい部下をはじめ目下には、それぞれ依頼表現が自由であるが、硬い「命令型」と軽い命令の「指示型」が一番よく使われている。
- ⑤ あまり親しくもない同僚などの同輩には、「願望型」が一番よく使われている。
- ⑥ 友達、恋人などの親しい同輩には、圧倒的に「命令型」が一番よく使われている。

表5に対して、表6は女性の依頼表現使用数を統計した結果である。

表5 類型別で見る男性の依頼表現使用数

男性合計：120

関係 類型	疎・×	親・上	疎・上	親・下	疎・同	親・同
命令型	0	0	0	7	0	23
指示型	0	0	0	9	0	6
意思表明型	3	2	0	5	0	7
願望型	9	8	1	9	8	7
意思確認型	6	0	0	2	1	4
仄めかし型	1	1	0	0	0	0
合計（120）	19	13	1	30	10	47
パーセンテージ	15.83%	10.83%	0.83%	25.00%	8.33%	39.17%

表6 類型別で見る女性の依頼表現使用数

女性合計：84

関係 類型	疎・×	親・上	疎・上	親・下	疎・同	親・同
命令型	0	0	0	0	0	4
指示型	3	0	0	2	2	19
意思表明型	0	1	0	0	2	6
願望型	3	5	0	2	3	6
意思確認型	1	0	1	0	2	7
仄めかし型	0	1	1	0	2	10
合計（84）	7	8	2	4	11	52
パーセンテージ	8.33%	9.52%	2.38%	4.76%	13.10%	63.41%

表6のデータについては次のようにまとめることができる。

- ① 依頼表現数は、男性は全部で120件があるのに対して女性は84件しかないで、全体的には、女性の依頼行為が少ないことが分かる。女性は、人のフェイスを脅かす行為を遠慮しがちな一面が伺える。
- ② 「親・同」に対する依頼行為が52件で、全体の63.41%も占めているから、女性の場合は、親しい人ほど依頼しやすいという傾向が男性よりもかなり強いことが分かる。
- ③ 見知らない人（例えば店員、タクシーの運転手などのサービス業の人）や取引先の人には、一番よく使われているのは、いわゆる「願望型」と「指示型」である。ただし、「指示型」として見られる3例は、すべて不良少女だった青井由希さんが酒を飲んでからの表現で、普通の状態での女性の代表的なものにはならないと考えられるから、見知らない人への場合は、男性と同じ「願望型」が一番多く使われているのが分かる。
- ④ 上司をはじめ目上の人には、親しい目上には「願望型」が一番よく使われているが、あまり親しくない上司には、より丁寧度の高い「意思確認型」や、「仄めかし型」も使われている。

- ⑤ 親しい目下には、特に「願望型」と「指示型」が一番よく使われている。
- ⑥ あまり親しくもない同僚などの同輩には、「命令型」以外はわりと依頼表現が自由らしい。
- ⑦ 友達、恋人などの親しい同輩には、圧倒的に「指示型」が一番よく使われている。
- ⑧ 全体的には、「仄めかし型」がよく使われている。女性は依頼行為が人に対する迷惑を考慮し、FTAを軽減するために、それとなく相手に自分の依頼事を分かってもらうことによると考えられる。

以上、男女に見られる各類型依頼表現の使用順を整理すると表7になる。

表7を通して次のようなことが明らかになったと思われる。

- ① 硬い命令調の「命令型」は、男性では親しい同輩か目下にはよく使われるが、女性では親しい同輩それに恋人か準恋人の関係にしか使わない。
- ② 軽い命令調の「指示型」は、男女とも親しい同輩か目下にしか使わない。
- ③ 「意思表明型」は、男性では「親・同」に一番よく使うが、女性では「親・下」に一番使う。
- ④ 「願望型」は、男女ではそれぞれ「疎・×」と「親・同」に一番多く使われているが、男性が普段仕事上、取引先の人と

表7 各類型依頼表現使用順における男女差

	命令型	指示型	意思表明型	願望型	意思確認型	仄めかし型
男	親・同→ 親・下	親・下→ 親・同	親・同→ 親・下	疎・×→ 親・下→ 親・同	疎・同→ 親・同	疎・×→ 親・上
女	親・同	親・下→ 親・同	親・下→ 親・同	親・同→ 疎・同	親・同→ 疎・同	親・同→ 疎・同

接する場面が多いから「どうぞよろしくお願いします」を頻発するに起因していることによるであろう。

- ⑤「意思確認型」は、相手の意思を確認する形で依頼する婉曲的依頼表現として、男性は相変わらず「疎・×」に一番使うが、それも仕事上の原因からであろう。女性は、「親・同」に一番よく使うから、女性がたとえ親しい友達・恋人に対しても配慮して、婉曲的に依頼することが伺える。
- ⑥「仄めかし型」は、女性では全部で14件で総数の16.67%を占めているのに対して、男性ではたったの2件で全数の1.67%しかない。女性の「仄めかし

型」発生率は、男性のほぼ10倍になるというのは大きな差となる。

さらに、「命令型」「指示型」と「意思表明型」を低配慮的依頼表現とし、「意思確認型」と「仄めかし方」を高配慮的依頼表現とすると、男女での差異は表8になる。

表8で明らかのように、男性が女性よりも低配慮的依頼表現を使うが、女性は男性のほぼ2.5倍の高配慮的表現を使っていることが分かる。

(3) 関係別に見る男女差

次は、「疎・×」「親・上」「疎・上」「親・下」「疎・同」「親・同」などの関係別に各類型依頼表現の男女差を見てみる。

表8 配慮度の高低に見られる男女差

類型	性別	件数	対総数比率
低配慮的依頼表現	男	30 + 15 + 17 = 62	51.67%
	女	4 + 26 + 9 = 39	46.43%
高配慮的依頼表現	男	13 + 2 = 15	12.5%
	女	11 + 14 = 25	29.76%

表9 関係別に見る各類型依頼表現男女差

関係 類型		疎・×	親・上	疎・上	親・下	疎・同	親・同
命令型	男	0%	0%	0%	21.86%	0%	48.94%
	女	0%	0%	0%	0%	0%	7.69%
指示型	男	0%	0%	0%	28.13%	0%	12.77%
	女	42.86%	0%	0%	50%	18.18%	36.54%
意思表明型	男	15.79%	18.18%	0%	15.63%	0%	14.89%
	女	0%	14.29%	0%	0%	18.18%	11.54%
願望型	男	47.37%	72.73%	100%	28.13%	88.89%	14.89%
	女	42.86%	71.42%	0%	50%	27.27%	11.54%
意思確認型	男	31.58%	0%	0%	6.25%	11.11%	8.51%
	女	14.28%	0%	50%	0%	18.18%	13.46%
仄めかし型	男	5.26%	9.09%	0%	0%	0%	0%
	女	0%	14.29%	50%	0%	18.18%	19.23%

表 10 各類型依頼表現使用傾向にみる男女差

	疎・×	親・上	疎・上	親・下	疎・同	親・同
男	願望型→ 意思確認型→ 意思表明型	願望型→ 意思表明型→ 仄めかし型	願望型	指示型→ 願望型→ 命令型	願望型→ 意思確認型	命令型→ 意思表明型→ 願望型→ 指示型
女	願望型→ 意思確認型→ 指示型	願望型→ 意思表明型→ 仄めかし型	意思表明型→ 仄めかし型	願望型→ 指示型→ 意思確認型→ 意思表明型→ 仄めかし型	願望型→ 指示型→ 意思確認型→ 意思表明型→ 仄めかし型	指示型→ 仄めかし型→ 意思確認型

表9に基づいてさらに、表10のような、男女における各類型依頼表現使用傾向がうかがえる。

表10は使用傾向に見られる男女の差をまとめたものであるが、親疎・上下関係による男女の使用差を次のようになっている。

- ①「疎・×」「親・上」に対しては、男女ともにほぼ同様に「願望型」を一番多用する。
- ②「疎・上」に対しては、男性は一律「願望型」を使うが、女性ではむしろ直接自分の意思を表明するいわゆる「意思表明型」と、それとなく分らせる「仄めかし型」を多用する。
- ③「親・下」に対しては、男性は「指示型」を多用するが、女性はそれでも「願望型」を多用する。そこには男女の差が見られる。
- ④「疎・同」に対しては、男女ともに「願望型」を多用する。が、実例を分析してみた結果、同じ願望型といっても、女性は「お願い（します）」、「～てちょうだい」などいわゆる高配慮の依頼表現を多用するが、男性はほとんど「頼む」で直接依頼する。
- ⑤「親・同」に対しては、男性は遠慮せずに「命令型」を多用するが、女性は「指

示型」を一番多用する。そして、親しい同輩、たとえ恋人に対しても女性は「仄めかし型」依頼表現を使うのが興味深い。

全体的に見ると、男女ともに親しくない関係にある相手に対しては、「願望型」を多用するが、女性は親疎関係に関係なしに高配慮度の依頼表現、たとえば「願望型」「仄めかし型」「意思確認型」を多用する傾向が見られる。

(4) 機能的表現に見る男女差

依頼行為の実現は、単に「～してください」のように率直に頼む場合もあるが、相手との人間関係、力関係などを考慮して、もっと方略を考えた上で依頼する場合のほうが圧倒的に多く、一連の発話行為からなっていると考えられる。「ラストクリスマス」に実際に出てきた依頼表現を例にとってみよう。

「あっ、悪いんだけどさ、まえ頼んでた中古のワゴン、キャンセルしてくれる？えいや、ちょっとさ、ボーナスの使い道、他にきちゃった。おごめんな。」

以上のような依頼表現は、一連の発話からなっている。まず、「あっ」という感動詞で

相手の注意を引いて、それから、「悪いんだけどさ」で謝罪の前置きをすることを通して、相手にこれからの会話内容を提示すると同時に、相手にかかる負担を意識して配慮する。また、「～てくれる？」のような疑問文を使って、相手に拒否する権利を与える形で、相手に対する配慮を図る。そして、「いや、ちょっとさ、ボーナスの使い道、他にできちゃった」で相手に依頼することに至った理由を述べたり、さらに、相手に対する負担を意識して、「ごめんな」で挨拶して謝罪したりして依頼行為を完成するわけである。

本稿では、特に依頼表現の文末表現（終助詞の使用・疑問文の使用）に見られる男女差を考察してみる。

「ラストクリスマス」のシナリオには、依頼表現について出てきた終助詞は主に「よ」「ね」「な」「かな」「の」がある。男女別に見る使用率は表 11 になる。

依頼表現に使う「よ」は、意向・勧誘などの意を強めて言い表すが、「一日私遅れて到着しますから、それまでよろしく頼むよ。」のように、語気がやや強くなるが、表 11 で分かるように、男女ともに依頼表現の文末に「よ」をつけて使う例が一番多い。そこには男女の差が見られない。

それに対して依頼表現に使う「ね」は、相手の同意を求める気持ちを表す終助詞であるが、「病室には来ないでね。」のように、語気が柔らかい依頼になる。表 11 で明らかなよ

うに、女性での使用率は男性の 3 倍近くもあり、女性が依頼行為において相手に対する配慮がよく見られる。

「な」は、「強い禁止の意を表す」（スーパー大辞林 3.0）終助詞であるが、「お前言うな」、「由希、そこを動くな」のように、強い命令調であるが、表 11 でわかるように、「な」の使用率は、男性では女性の 3 倍にもなる。

「かな」は、「もうすこしだけ、待ってもらえないかな。ニューヨークに行きたいの。一年だけです。一年で帰ってくるから。待ってもらえないかな。」のように、「（「ないかな」の形で）願望の意を表す」終助詞で、やわらかい口調になるが、表 11 で明らかなように、女性での使用率は男性の 3 倍ぐらいにもなる。

あと、「の」は、「お願いがあるの」のように、「文末に用いて、感動の気持ちを込め、同意を促したり念を押したりする」終助詞であるが、柔らかい口調で相手に対する負担を意識して語気を和らげるために利用されるが、男性での使用率はゼロに対して女性では 2.38% にもなる。

つぎに、依頼表現における疑問文（否定疑問文も含む）を見てみる。依頼表現における疑問文の使用は、例えば、「取締役の、今晚の予定は入っておりません。そのお時間、私に、いただけませんか。」のような表現については、（依頼）に応じて《協力》するか否かの決定は相手に委ねられる。特に否定疑問

表 11 男女別に見る終助詞使用の差

	よ	ね	な	かな	の
男性 (120)	15 件 (12.5%)	2 件 (1.67%)	4 件 (3.33%)	1 件 (0.83%)	0 件 (0%)
女性 (84)	10 件 (11.90%)	4 件 (4.76%)	1 件 (1.19%)	2 件 (2.38%)	2 件 (2.38%)

表 12 疑問文の使用

	疎・×	親・上	疎・上	親・下	疎・同	親・同	合計
男性 (120 件)	2 件	0 件	0 件	2 件	1 件	3 件	8 件 (6.67%)
女性 (84 件)	1 件	1 件	1 件	1 件	2 件	10 件	16 件 (19.05%)

文を用いた方が相手の否定応答を前提にしており、押し付けがましくない配慮を表現できる」(山岡他、2010)が、表 12 でわかるように、女性での使用率は男性の 3 倍ぐらいもあり、依頼するときの女性の配慮がうかがえる。

4 結論と今後の課題

以上の考察で、テレビドラマ「ラストクリスマス」の台詞から抽出した依頼表現をデータとして、依頼表現における男女差を分析した。その結果、男性の表現が硬くて、女性の表現が柔らかいという結論が得られた。男女の性差がだんだん小さくなりつつあり、ゆくゆくはなくなって人間は中性的になるのではないと言われる中、21 世紀を舞台とする「ラストクリスマス」を見る限りでは、女性はいまだに、明らかに男性と異なった、柔らかい表現をしていることが明らかになった。

女性による依頼表現には、人との協調を大事にするという態度が見られる。いわば会話の目的は、男性では「自立性」を誇示するのに対して、女性では人との「つながり」を確認することにあると考えられる。

「ラストクリスマス」は、主に若い男女を中心としたドラマであるから、人間関係が

わりと単純で、ビジネス場面での会話、各年齢層での会話など、いわゆる場面別、年齢別などからの考察は足りない感じも免れない。依頼表現における男女差の全容を浮き彫りにするならば、さらにスタイルの違うドラマを加えて分析を進める必要があるが、紙幅の都合で今後の課題とする。

【参考文献】

1. 浜田麻里 (1995). 「依頼表現の対照研究——中国語における命令依頼の方略」『日本語学』10 月号
2. 山岡正紀ほか (2010). 『コミュニケーションと配慮表現』, 明治書院
3. 中村桃子 (2001). 『ことばとジェンダー』, 勁草書房
4. P・トラッドギル (土田滋訳). 『言語と社会』, 岩波新書
5. ジェニファー・コーツ (吉田正治訳) (1990). 『女と男とことば』, 研究社印刷株式会社
6. 許清平・小野由美子 (2002). 日中母語話者の『依頼』表現に関する研究, 『鳴門教育大学実技教育研究』第 12 号
7. 宮偉 (2009). 「试论日语中男女性别差的现状及走向」, 『日語学習與研究』

An Analysis of the Gender Differences in Japanese Request Expressions: Taking the Lines of TV Drama as an Example

GONG Wei*

*OKAYAMA SHOKA UNIVERSITY

Abstract

Human beings are categorized into males and females. Males and females are differentiated from each other not only in physiology but also in culture. This paper takes the lines of TV drama *Last Christmas* as an example to analyze the use of Japanese request expressions from the perspective of gender difference. The speech act of request, which frequently occurs in our daily life, is often concerned with face-losing problem. Based on a careful investigation, the present study suggests that in general males tend to request in a direct way, while females are more likely to do it in a polite or indirect manner. Many scholars have claimed that the gender differences in language use will be minimized or even be neutralized gradually with the development of our society. Nevertheless, this paper argues that such gender differences may never disappear due to the culture environmental differences which early existed on the males and females as they were quite young.